

【今週の注目疾患】

《後天性免疫不全症候群》

2024年第44週に県内医療機関から届出が1例あり、本年の累計届出数は27例となった。県内では、2019年以降、年間累計届出数は減少傾向にあったが、今年は増加に転じた2023年と同様、2022年より多くなっている（図1）。また、AIDSは、第44週時点で12例/27例（44%）となっている（図2）。

図1：2015年から2024年の県内の後天性免疫不全症候群の診断年別届出数
（2024年第44週時点）

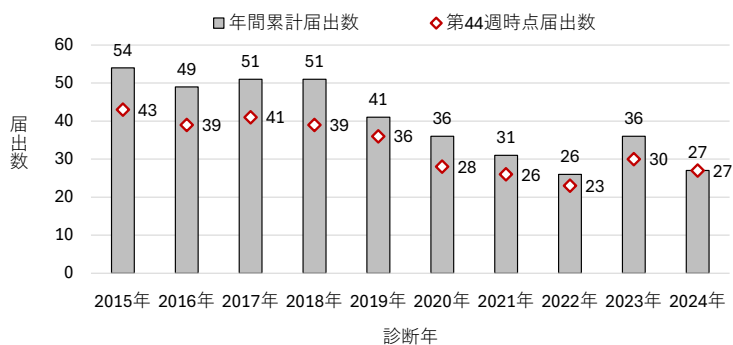
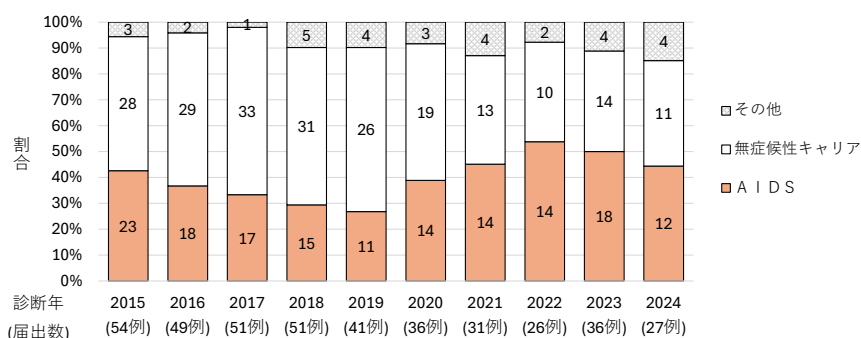


図2：2015年から2024年の県内の後天性免疫不全症候群の病型別届出数・割合
（2024年第44週時点）



2015年から2024年第44週までに県内医療機関から届出のあった402例の概要は以下のとおり。

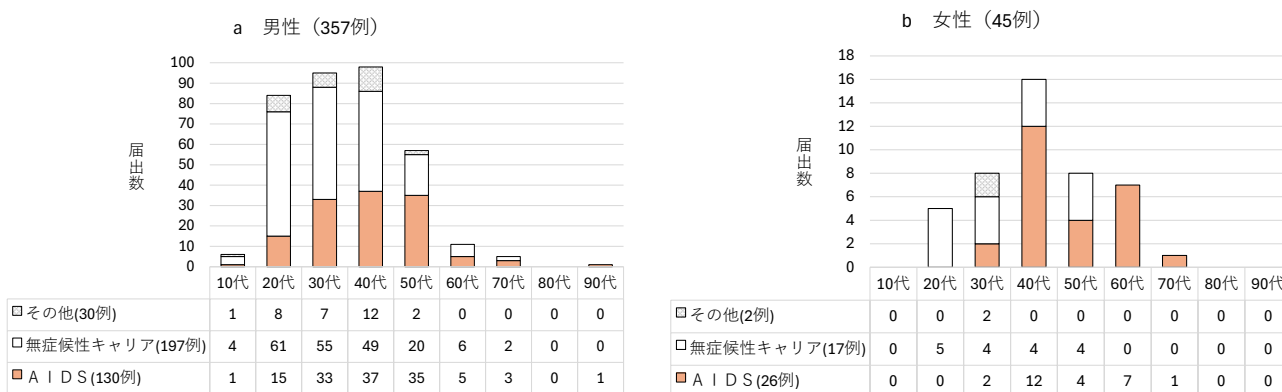
性別は、男性が357例（89%）、女性が45例（11%）であり、男性が約9割を占めた。

病型は、男性では無症候性キャリアが最も多く197例（55%）、次いでAIDS患者が130例（36%）、その他が30例（8%）であった。一方、女性ではAIDS患者が最も多く26例（58%）、次いで無症候性キャリアが17例（38%）、その他が2例（4%）であった（図3）。

年齢は、無症候性キャリア214例では20代が最も多く66例（31%）、次いで30代が59例（28%）、40代が53例（25%）と、20代から40代が多かった。また、AIDS患者156例では40代が最も多く49例（31%）、次いで50代が39例（25%）、30代が35例（22%）と、30代から50代が多かった（図3）。

国籍は、日本国籍者が331例（82%）、外国国籍者が59例（15%）、不明が12例（3%）であった。

図3：2015年から2024年の県内の後天性免疫不全症候群の性別・年齢群別・病型別届出数（2024年第44週時点）



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus ; HIV) に感染することで免疫不全が生じ、健常者では通常見られないさまざまな日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる¹⁾。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは他の人に伝播しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になってきている。

千葉県では無料・匿名の検査を実施しています

県では、保健所等において無料・匿名のエイズ等の検査を日中、夜間、休日に実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご利用ください²⁾。

■参考・引用

- 1)国立感染症研究所：AIDS（後天性免疫不全症候群）とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>
- 2)千葉県健康福祉部疾病対策課：千葉県内のエイズ等相談・検査
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>